

【暗証聖句】

「ファラオはヨセフに向かって、「見よ、わたしは今、お前をエジプト全国の上に立てる」と言い、創世記 41 : 41

【日・権力者に上り詰めるヨセフ】

ヨセフがファラオの夢を見事に解き明かすと、ファラオと家来たちは皆、ヨセフの言葉に感心し、「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」と言います。そして、ファラオは「お前をわが宮廷の責任者とする」といって、何と元奴隷であり、囚人、しかも外国人だったヨセフを、エジプトの国の責任者に任命するのです。神様が共におられるとき、想像もしていなかったことが人生に起こることです。創世記 41:46 に、「ヨセフは、エジプトの王ファラオの前に立ったとき三十歳であった。ヨセフはファラオの前をたって、エジプト全国を巡回した」と書かれています。30 歳という年齢は、イエス様が公生涯に立たれたのと同じ年齢であり、祭司が独り立ちするのも 30 歳。エゼキエルが預言者として立つのも 30 歳。このようなことは偶然ではないのかもしれませんが。ヨセフは与えられた仕事を責任をもって果たしていきます。これはポティファルや牢獄の前でも同じでした。クリスチャンとして生きるとは、福音をのべ伝えるだけでなく、その前に、このような義務や責任に対して忠実であり、誠実さが求められているのです。それがなくては、福音も伝わらないのです。

ところで、ファラオや家来たちがヨセフの神様を認めても、それを利用して神様を信じるように促してはいません。当時は、まだ世界宣教の使命が与えられていなかったということもあるでしょうが、しかし神様を信じ、忠実に生きる無言の姿の中に、神様は表されていたのでした。

また、創世記 41:45 に「ファラオがヨセフに祭司ポティ・フェラの娘アセナトを妻として与えた」と書かれています。異教徒との結婚となったわけだが、二人の間に二人の息子が生まれます。一人は、マナセ（忘れさせる）、もう一人がエフライム（増やす）です。後に、2 人から生まれた子孫が、後に祭司職の家系となるレビ族の代わりに、12 部族を構成することになります。二人の息子につけた名前は、「神様が、わたしの苦労と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」という思いと、「神様は、悩みの地で、わたしに子孫を増やしてください。」というヨセフ思いが込められています。

【月・ヨセフ、兄たちと対面する】

ヨセフの夢の解き明かしの通り、飢饉がエジプトのみならず周辺諸国一帯にも広く及びます。ヤコブと息子たちも飢饉に直面し、食べる物に困窮するようになります。ヤコブは、エジプトに穀物があると知って、エジプトへ下って行って穀物を買ってくるようにと息子たちに言います。エジプトはナイル川を中心に栄えた国で、干ばつによる飢饉が発生したときには、周辺諸国からエジプトに穀物を買付けに来ることは珍しいことではありませんでした。しかし、ヤコブの息子たちはヨセフのことがあったために、エジプトに行くのを躊躇していたと思われます。ヤコブは、「我々は死なずに生き延びることができる」（創世記 41 : 2）と言います。事実、それ以上のことが起こることになります。死んだと思っていたヨセフのおかげで彼らは命が救われるのです。このことは十字架で死なれたイエス様によって、私たちの命が救われることを連想させます。

兄弟たちが、食べ物を買いにエジプトにやって来て、知らずにヨセフにひれ伏したとき、「ヨセフは、かつて兄たちについて見た夢を思い起こ」します（創世記 42:9）。すべてが神の摂理でした。神様の摂理によってすべてが動いていることを理解できたとき、私たちは、主こそ神であることを知り、感謝と畏敬の念に満たされることでしょう。主はエレミヤ 29:11 で、こう言われています。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである」

【火・ヨセフとベニヤミン】

ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄たちに同行させませんでした。それは、「何か不幸なことが彼の身に起こるといけないと思ったからであった」と創世記 42:4 に書かれています。しかし、ヨセフは同じ母の弟であるベニヤミンを連れて来るようにと言い、それまでの間、兄弟の中から一人を人質にすると言います。兄弟たちは話し合い、シメオンを選び出します。理由は書かれてありません。本来であれば長男であるルベンが残ってもよさそうなものですが、かつてシメオンは妹のために大勢の人を殺したり、ヨセフを殺すことに対して積極的であったことから、神様が介入し、自らが犠牲となり、真に悔い改める機会を与えたのかもしれませんが。

ヨセフだと気づいていない兄弟たちは、なぜベニヤミンにこだわるのか分からなかったことでしょう。ヨセフは単にベニヤミンに会いたいだけでなく、自分は兄たちから酷いことをされたわけだが、ベニヤミンに対して兄たちがどのような態度を取るのか確かめたかったのかもしれませんが。

またベニヤミンを連れてくるということは、ヤコブにとっても大きな試練となるのでした。ヤコブは、「ベニヤミンだけは、お前たちと一緒に動かさなければいけません。この子の兄は死んでしまい、残っているのは、この子だけではないか。お前たちの旅の途中で、何か不幸なことがこの子の身に起こりでもしたら、お前たちは、この白髪の父を、悲嘆のうちに陰府に下らせることになるのだ」（創世記 42 : 38）と言います。かつての信仰の力強さが見られません。これ

が歳を老いるということかもしれません。自分の不幸や悲しみばかりで、他の兄弟たちのこと、特に人質とされたシメオンのことに思いがいきません。ヤコブはベニヤミンを手放すことが出来るのでしょうか。ヤコブはベニヤミンを神様に委ねなければなりませんでした。老齢のヤコブは最後の訓練を主から受けていたのです。

創世記 43:14 を見ると、ヤコブは「どうか、全能の神がその人の前でお前たちに憐れみを施し、もう一人の兄弟と、このベニヤミンを返してくださいませよう。このわたしがどうしても子供を失わねばならないのなら、失ってもよい」と言っています。ヤコブは、「失わねばならないのなら、失ってもよい」と、神様の御心が第一であるとの信仰を取り戻すのです。

ヨセフがベニヤミンと再会したとき、うれしさのあまり、泣きそうになります。ヨセフは食事の席を設けますが、兄弟たちは、なぜこのような食事に招かれるのか意味が分からなかったことでしょう。面白いのは、ベニヤミンには他の兄弟たちの5倍もの食事がふるまわれたことです。5という数字は、エジプトでは縁起の良いものとされており、ヨセフのうれしさが伝わってきます。

【水・占いの杯】

ヨセフは、家に帰っていかうとする兄弟たちに、買い付けた穀物と共に、その代金もそっと返します。そのとき、なぜか占いに使う銀の杯を、ベニヤミンの鞆の中に、そっとしのぼせるのです。この杯は大変な貴重なもので、それをベニヤミンが盗んだという濡れ衣を着せることで、兄弟たちを再び試そうとしたのです。占いに使用する銀の杯をあえて用いることで、彼らの生涯の秘密さえも見通すことができるのだと、兄弟たちに信じさせたかったようです。SS ガイドの中では、「この占いの杯は、兄たちの心に超自然的な領域を呼び起こすためであり、彼らの神に対する罪の意識を呼び覚ますために用いられた」と書かれてあります。ユダは「神が僕どもの罪を暴かれたのです」（創世記 44:16）と言っていますので、確かに効果はあったようです。まさに原罪の自覚であり、キリストの十字架の赦しは、この原罪に對してなのです。

ユダは、「この上は、わたしどもも、杯が見つかった者と共に、御主君の奴隷になります」（44:16）と言います。ヨセフを置き去りにしたかつての兄たちは、ベニヤミンを一人置き去りにしないと誓うのでした。この言葉をどれほどヨセフは喜んだことでしょう。ヨセフは、「そんなことは全く考えていない。ただ、杯を見つけれられた者だけが、わたしの奴隷になればよい。ほかのお前たちは皆、安心して父親のもとへ帰るがよい」（44:17）と言います。結局、人は他の人の罪を贖うことができないということです。それができるのは、イエス・キリストだけなのです。

【木・わたしはヨセフです。】

ヨセフは、ベニヤミンだけ残して、帰れと言うと、ユダはこう言います。

「何とぞ、この子の代わりに、この僕を御主君の奴隷としてここに残し、この子はほかの兄弟たちと一緒に帰らせてください。この子を一緒に連れずに、どうしてわたしは父のもとへ帰ることができましょう。父に襲いかかる苦悶を見るに忍びません。」創世記 44:33、34

なんとユダはベニヤミンだけでなく、すべての兄弟の身代わりとなって一人残ると言ったのです。「この子を一緒に連れずに、どうしてわたしは父のもとへ帰ることができましょう」。この気持ちこそ、イエス・キリストの気持ちを表しています。ユダ族から後にイエス様は生まれるわけですが、このようにユダを立ち上がらせたのは、偶然ではないでしょう。兄たちが変わったことを知り、ヨセフは耐えきれず、自分がヨセフであることをついに告白します。

創世記 45 章 3 節「ヨセフは、兄弟たちに言った。「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかった。」

ヨセフは兄たちを側に呼んで、今までの全ての出来事を話し出します。その中で彼は、話す出来事全てに「神」を、主語として用いています。このことは、彼の「人生の主役が誰か」をはっきりさせます。

「神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです」（45:5）

「神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは・・・あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです」（45:7）

「わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです」（45:8）

マイナスから始まったヨセフの人生を、プラスに変えたお方は神様でした。ヨセフは、自分の人生の主語を、「自分」や「兄」や「父」にはしません。もし、主語を兄にするならば、「兄たちから奴隷に売られ、私は苦しみ続けた」となり、自分にすれば、「私の力で頑張り…私の努力でエジプトを治める者となり…私がお前たちを救い…」となります。人生の主語が私ではなく、「神」であることがわかると、その人の人生は大きく変わります。